

海藻に付着する危険な生物の正体

環境増養殖担当 棚田 教生

Key word ;カギノテクラゲ, ハオコゼ, ガラモ, 海藻, 危険生物

何かに刺される！

今年の 4 月下旬, 橘町漁協の採貝漁業者の方から, 「橘湾で操業中に海藻の近くで何かに刺され, 全身症状(疼痛, 倦怠感)がでる。原因生物を調べてほしい」という依頼が水産課を通じて入りました。実際にお話を聞いてみると, 刺されると次第に体がだるくなって思うように泳ぐことができなくなり, 船に這い上がることも難しくなる(溺死する危険性もある)という深刻なものでした。また刺される場所はだいたいガラモ(岩場に生えるホンダワラ類)が生えているところで, 刺される箇所は水中に露出している口の周囲(唇)だけということでした。どうやらガラモに付いている生物が怪しいという予測がたちましたが, これまで研究所内でもそのような話は聞いたことはなく, 筆者自身も普段ガラモの周辺を潜水調査していますが, そのような経験は一度もありませんでした。

犯人は「小型クラゲ」だった

なにはともあれ, 現場の様子と海藻を見せてもらおうということで, よく刺されるという現地の海域に実際に連れて行ってもらい, 潜水調査をおこないました。

現場海域では水深 2m~5m の範囲に良好なガラモ場が形成されており(写真1), そのガラモに小型の生物が付着しているのが水中で観察されました。

他にも原因と考えられるような生物(魚類)がいないか海藻の周囲を注意深く観察しましたが, そのような生物は見つかりませんでした。

その後, 採取したガラモを研究所に持ち帰って調べたところ, ガラモに付着している小型のクラゲが見つかりました。独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所の担当の方に同定をお願いしたところ, このクラゲは「カギノテクラゲ」という有毒種であることが判りました。このクラゲはサイズこそ小型ですが強い刺胞毒を持っており, 刺されると激痛とともに呼吸困難などの全身症状を伴うことから, 重大な事故につながる事が報告されています。神奈川県では実際に平成 13 年 5 月から 6 月にかけて, アワビ漁場で操業する潜水漁業者の間で本種に刺されたと考えられる事故が相次ぎました。今回橘湾で大の大人を一撃で苦しめた犯人も, 実はこの小さなクラゲだったのです。

本種はその名前のとおり, 「鍵の(ように折れ曲がった)手」で海藻に付着しています。橘湾ではガラモに付着していましたが, カジメ(写真2)やアマモ(写真3)といった他の海藻(海草)にも付着していることが知られています。その後, 7 月に鳴門市沿岸でも海藻(ヒジキ)に付着したカギノテクラゲ(写真4)を発見しましたが, このクラゲは傘の部分の直径が 1cm 弱と小型でした。なお, 本種は神奈川県では水温が 15~20℃の時期に多く出現しており, 10℃を下回ったり, 25℃を超えると活性が衰えることが分かっています。従いまして, 本種は徳島県では春先から 夏にかけての時期に発生する可能性が高いと言えます。



写真1 橘湾のガラモ場
(水深 2m~5m)



写真2 カジメ



写真3 アマモ

被害に遭わないために・・・

今回、橘町の採貝漁業者の方々に被害をもたらしたのはカギノテクラゲであることが判明しました。では、今後同じような被害に遭わないためにはどうすればいいのでしょうか？

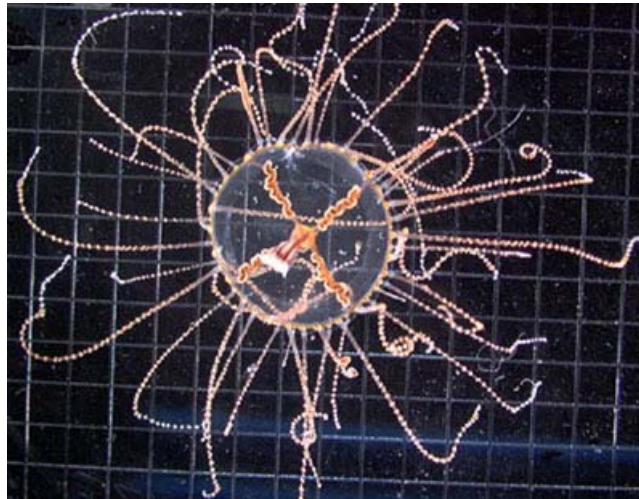


写真4 カギノテクラゲ(鳴門市折野沿岸:傘径 9mm)

このクラゲはやっかいなことに傘径が 2cm 未満と小型ですので、水中でこのクラゲを事前に発見して避けるということはまず無理です。ただ本種は普段海藻にくっついてあまり遊泳しないので、海藻の周辺だけに気をつけていればよいということが言えます。それでも漁をしていてやむを得ず海藻に近づく際には、肌の露出が極力ないように工夫する必要があります。具体的にはフード(潜水帽)とグローブは必ず着用し、口の部分以外は水中に直接露出しないようにします。そして口の部分もグローブを付けた片方の手で呼吸器ごと覆うようにすれば海藻および有毒生物との接触はかなり防げるでしょう。

また、本種は比較的穏やかな海域の浅い水深帯に生育する海藻に付着していますので、採貝漁業者の方以外にも、海水浴や磯遊び、ダイビングなど海で遊ぶ一般の方も注意が必要です(この場合は海藻のあるところに近寄らないようにすることでほぼ解決できます)。また海藻のあるところには、ハオコゼ(写真5)という鱗に毒を持つ小型魚が隠れていることが多いのですが、裸足でこの魚を踏んづけてしまうと大変です。もしカギノテクラゲやハオコゼのような危険生物の知識を持ちあわせていない一般の方が遊泳中などに刺されると、毒自体は大したことが無くても知識がないためにパニックに陥ることがあり危険です。



写真5 ハオコゼ

実は県内ではこれまで今回のような海藻に付着する生物による被害の報告例はほとんどなく、原因も判っていませんでした。今回橘町の漁業者の方からの報告を受けて調査を行い、初めて詳しいことが判りました。海の中にはまだまだ我々が知らない危険な生物がたくさん潜んでいるのです。我々潜水調査をおこなうものにとっても注意が必要なのは言うまでもありません。海に入るときは、危険な生物の種類や生息場所などについてできるだけ正確な知識を持っておくこと(参考図書:「ダイビング上達クリニック2」(マリン企画)など),そして何よりも謙虚な気持ちを常に持って、むやみに海の生物に近づいたり触ったりしないことが大切だということを今回改めて教えられた気がしました。